

12/5(金) まいど! 倫理号です。師走に相応しい今日この頃、又伊交換せしめたい  
又今虫聖下社と全口の神々かニ来社と以賑わいあるとか。良きニ縁組真つ中、  
今年の締めくくりにならんとすべしぞかへ。

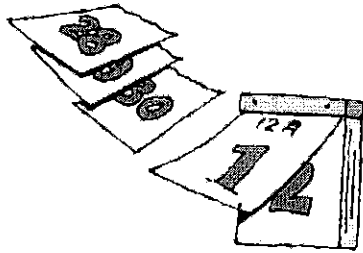
今週の倫理 902号

幸の星が 小島

2014.12.6~12.12

12月版の一句

「有難や 縁之縁と 國邦のあり」 幸の星



え・小島サエキチ

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二二・一九九九）のこ  
とばを掲載します。

丸山竹秋

# 締めくく りの礼

十二月のテーマ

締めくくり

## 年

末は忙しいという。一年のしめくくりをしなければならぬので、あちらこちらと飛びまわったり、家の中を片づけたりで、大変だという。

だが、その忙しいしめくくりのお礼ということが、やはりあるのではなからうか。一年間いろいろと接してきた人、使ってきた物、その他たくさんお世話になってい

「今年もいろいろご厄介に相成りました。来年もひとつ、よろしくお願いたします」  
人に対しては、そう言うのである

う。そんな挨拶をかくべつしない人もいることだろう。知らん顔をして、自分のことだけに汲汲として過ごす。めんどうだからと年末年始は、旅行をたのしむ人もあるのである。年末年始だけは、ゆっくり休養をとらせてくれと、平素は猛烈に忙しい人が頼んでいるのを聞くと、もつともだとは思

入れるか。ナイフとフォークを使う。スプーン、そして箸。

一般に箸を使う人は、それらをまとめて、せめて年末くらいには一度、「今年もお世話になりました。どうもありがとうございます。来年もよろしく」とお礼のご挨拶をする形をあらわしたらいかがなものである。気持ちさがさっぱりするだけでなく、こうした物への感謝が、ほかの面にも必ずあらわれて、その人の生活を豊かにするのである。

豊かとは、その人に接すると何となく暖かいような、たとえ金持ちではなくても心の中にいろいろな財産があるような、またギスギスしていない、渋面ばかりしていない、明るい感じ、そうしたものを持つてい

ナイフやフォークばかり使う人でも、クリスマス前の前後か、あるいは他の適当な日に、一年間の感謝をこめての挨拶をしたらどうであらうか。こうしたお礼の挨拶は、必ずしも仰々しくするには及ぶまい。心もちの、ちよつとした表現でも、しないよりは、したほうが

はるかによいと思われる。

食事の道具に限られてしまったようだが、その他でいえば、たとえば水である。日光や空気とならんで、生物にとって水は欠かすことのできないのは、誰でも知っている。だが、一年間使ってきた水に対して、しめくくりのお礼をのべている人は少ないようだ。天災、人災その他で水がなくなつて、はじめて……といったぐあいなのではなからうか。

日本のように水の豊富などころでも、河や湖の水がにごり、また貯水の設備も不十分で、水をよこさぬよう、節水などが叫ばれているが、さて自分自身は日常にどのような水を大切にしているか、水にお礼を表わしているか、考えてみたらどうであらう。むつかしく、面倒にする必要はないけれども、せめて年の暮あたりには、せわしい中にも、箸に対すると同じように、いつも飲み、使っている水に対して、しめくくりの気持ちを表わしてみよう。

（月刊『新世』一九八二年十二月号より）